

研究主題

豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成と実践

I 主題設定の理由

今、子どもたちの学力向上に関する期待が、学校内外から広く求められている。私たちは、「子どもたちに本当につけさせたい学力」とは何かをあらためて問い直し、自主編成的な教育実践を積み重ねることによって、これらの声に対する結果を出していかなければならない。子どもたちに「ゆたかな学び」を保障するために、質の高いカリキュラムや実践を創造していくことは、私たち教職員の使命である。子どもの実態をふまえ、教材の活用や授業の展開を徹底的に検討することに加え、カリキュラムや授業プランを工夫して、その内容や方法を創り変えていく必要がある。

本部会では、主として自主編成によるカリキュラムの工夫について研究を進めている。新学習指導要領において、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力等の育成」によって学力向上を図ることが示されている。本部会では、各教科および総合的な学習の時間において、自主編成によるカリキュラムの工夫を生かした授業実践に取り組み、検証結果を日常実践に還元していくことを目指している。

授業の実践と検証においては、多様な視点から教材や単元を分析しながら、「どのように教えたらよいか。」「どういう授業を展開したら効果的か。」を模索していくことを基本としている。定められた指導計画によって「教科書を教える。」のではなく、「教科書『で』教える。」という意識を大切にしながら、自主編成的な学習プランを策定して実践を進めてきている。

成果の検証にあたり、今年度特に重視したのは次の3点である。

- 1 授業（単元）における、「子どもにつけさせたい力」は何かを明らかにする。
- 2 授業（単元）において、授業者が「自主編成した部分はどこか。」「工夫したところや作り直した点はどこか。」を明らかにする。
- 3 授業（単元）のふり返りや分析を丁寧に行い、成果と課題を明らかにする。

今年度得られた検証結果を日常実践に還元していくと共に、すべての子どもたちに「ゆたかな学び」を保障していくことによって、結果として子どもの学力向上につながるように、内容や方法を捉え直す努力を積み重ねていきたい。

II 研究の内容

1 総合的な学習の時間や各教科に関わるカリキュラムづくり

(1) 研究授業と授業分析

「大ふじまつり」 授業者 大藤小 小野紀男教諭

(2) 各教科等における個人実践発表

- ・算数「わり算の筆算を考えよう・活用学習の実践」加納岩小 原喜雄校長
- ・国語「書写・毛筆の指導」祝小 岡利光教頭
- ・理科「生命の連続性」笛川中 小林誠治教諭
- ・社会科「わたしたちのまちはどんなまち」勝沼小 古屋宏記教諭
- ・総合「伝え合おう 奥野田地区の昔から今に伝わるもの」奥野田小 山縣重人教諭
- ・「学級力向上プロジェクト（日川小の実践報告）」日川小 新海直仁教諭

2 今日的な教育課題についての学習会・情報交換

III 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 研究の対象が「総合的な学習の時間」だけではなく他教科に広がったことによって、様々な教科等のカリキュラムの工夫にふれることができた。今年度は中学校の理科の授業実践にふれる機会を得ることができた他、部会員相互による実践の交流を通して、自主編成的なアイデアや具体的な指導法を還流することができ、研究の広がりを実感することができた。
- (2) 研究授業においては、子どもの実態をふまえた教材開発や、効果的な授業プランの構築を模索することができた。指導者による綿密な教材分析の有効性と、めざす子ども像に通じる確かな指導意図を持つことの大切さを再認識することができた。生活科を通してダイナミックに学び合う子どもたちの姿が見られ、部会テーマに迫る豊かで自主創造的な授業のあり方について研究を深めることができた。
- (3) 授業分析において、児童作品や感想記述などに時間をかけて多角的に分析することによって、子どもの変容のみとりに生かすことができた。

2 課題

- (1) 「子どもにつけさせたい力」（育てたい力）を、どのように示す（表記する）かについて検討すると共に、子どもの主体的な学びを喚起できるような魅力ある単元構成を模索していくことが必要である。
- (2) 7人という少人数なので、参加者全員による主体的な発言や活発な討議ができることから研究討議が深まるというメリットはあるが、研究の広がりや円滑な部会運営という点において、より多くの先生方に本部会に参加していただけるとありがたいと思います。
(部長 新海直仁)